

Title	特殊鋼メーカーのASEAN投資戦略
Sub Title	
Author	丹羽哲也(Niwa, Tetsuya) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1363号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1363">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1363</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 特殊鋼メーカーのASEAN投資戦略

本研究では、特殊鋼メーカーD社がとるべき海外戦略について、現地調査をもとに考察を行なった。鉄鋼メーカーにとって海外進出は投資額が大きい上に技術移転が難しく、これまで積極的に実施されてこなかった。しかし、国内市場が成熟している中、ASEAN進出は新規市場開拓の最後の機会であり、特に特殊鋼メーカーにはメインユーザーの現地化が進展していることから、ASEAN市場に対するスタンスの構築が早急に求められている。

そこで、ASEANにおける特殊鋼のユーザー・ニーズを調査し、また予測されるカントリー・リスクを把握するために、インタビューによる現地市場調査を行なった。そして、その結果から、特殊鋼メーカーD社のASEAN市場進出の可能性を検討し、その進出形態についての研究を行なった。

研究の結果、今後ASEAN市場における特殊鋼需要は更に拡大し、また現地生産化へのニーズも高まってくることが判明した。また、市場の細分化などにより発生している現地化コストが減少すると一方、輸入コストが増加することから、現地化を阻んでいるコスト構造は今後数年間で大きく様変わりすると予想される。

これらの分析をもとに、D社のASEAN進出の形態について、現地のサービス体制強化や技術供与、人材教育など、設備投資以外のソフト分野における現地進出を優先的に実施すべきであること、また他社に先駆けて進出を図ることで、先取り戦略の適用を目指すべきであることを提言している。